

ふ・れあ、

Human ♥ Communication

2023
冬号

Vol.46

人と心に響き合う

清恵会グループ広報誌

FREE

ご自由にお持ちください

特集

清恵会病院のこれから

清恵会トピックス&インフォメーション

健康診断で、
口や喉のがんも検査できます

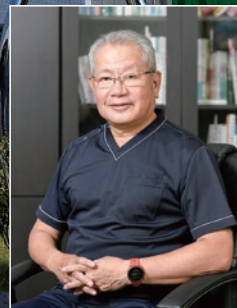
 社会医療法人 清恵会

特集

清恵会病院のこれから

院長 池内尚司

令和4年10月1日付けで清恵会病院の院長に就任いたしました池内尚司と申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。
今回の「特集」は、清恵会病院の特長や思い、今後の在り方などについて、あらためて私から地域の皆さまにご紹介したいと存じます。



清恵会グループのネットワーク

大阪府吹田市の千里丘陵で日本万国博覧会が開催された1970（昭和45）年、当時はまだ少なかった民間の救急病院として、ベッド数わずか87床でスタートした清恵会病院も今年で創立53周年を迎えます。

今では地域の救急・急性期医療を担う清恵会病院を中心として、回復期リハビリテーション・慢性期療養・人工透析の複合型医療機関である「清恵会三宝病院」、通所リハビリの「さんさんデイケア三宝」、訪問リハビリの「きんきんデイケア三宝」、訪問リハビリの「きんきんデイケア三三」、人工透析外来を専門とする「清恵会向陵クリニック」、訪問看護とリハビリの「清恵会訪問看護ステーション」、訪問介護の「清恵会ヘルパーステーション」、ケアプランの作成や介護相談などでサポートする「清恵会ケアプランセンター」を擁する清恵会グループを成し、社会医療法人として公益性の高い医療を提供しています。

また、「清恵会医療専門学院」と「清恵会第二医療専門学院」という二つの教育機関を運営し、次代を担う医療人の育成にも務めています。



救急・急性期医療から在宅療養まで

清恵会病院は急性期病院であり、24時間365日の受け入れ体制を整えた二次救急医療機関です。二次救急とは、入院治療や手術を要する救急医療をいいます。急性期とは、病気になるて間もない時期、けがをして間もない時期のことです。

当院の入院患者さまのおよそ3割は救急ですが、特に重症者や高齢者の多くは、急性期の治療を終えても引き続きリハビリテーションや自宅療養といった診

療・看護を必要とします。次の医療機関を探して転院や通院をするのは何かと大変ですが、その点、当法人には慢性期病院である「清恵会三宝病院」をはじめ、通所リハビリや訪問リハビリなどを提供する医療施設がそろっており、急性期から回復期あるいは療養期へとスムーズに移行することが出来ます。

さらに、当院には「地域包括ケア病棟」と「医療療養型病棟」があります。ここは、急性期の治

「総合支援センター」にご相談ください。

清恵会病院では、入院中だけでなく包括的に患者さまを支援するために「総合支援センター」を設置しています。

総合支援センターとは、入退院支援センターに医療福祉相談室と地域連携室を統合した部門であり、**入院に関する準備や手続きから退院後のリハビリ治療や自宅療養に関するご相談**まで、その名の通り総合的に患者さまとご家族を支援する窓口です。詳しくは当院1階でお尋ねください。

療終了後すぐに他の施設や在宅へ移るには困難や不安がある患者さまのための病棟です。同じ病院内でリハビリや療養ができるため心身の負担が少なくて済むことはもちろん、各科のスタッフ間で情報を共有し、より一貫性のある診療を実現しています。



BLS(一次救命処置)講習会



市民公開講座

とのふれあいです。私たちは地域の健康を支える医療機関として、病気の知識や予防法などをアドバイスする「市民公開講座」や「BLS(一次救命処置)講習会」などの催しを積極的に行っています。現在はコロナ禍のため休止していますが、いずれ再開し、交流の輪を広げたいと思っています。



清恵会健診センター

病気の予防と早期発見——
◆清恵会健診センター
治療や看護だけでなく、病気を予防することも私たちの重要な役割です。そのため、当院の8階には2020(令和2)年4月に開設した「清恵会健診センター」があります。
会社員や学生の方なら年に1回は健康診断を受けるでしょう。ですが主婦や高齢者、あるいは自営業者といった方々の中には、もう何年も受診していないという人がいらっしゃるのではないのでしょうか。病気の早期発見・早期治療が原則です。清恵会健診センターでは、いつでもどなた

清恵会健診センターの主な特色

- 当院の最上階に位置する広々とした健診・人間ドック専用のフロアです。ゆったりとした時間のなか、落ち着いて受診していただけます。
- プライバシーに配慮した女性専用スペースを設けています。婦人科の検査やマンモグラフィなどを行います。
- 基本的な検査をすべてセットした人間ドック基本コース、気になるところを重点的にチェックする脳ドック、心臓ドック、肺ドック、がんチェック、レディースドックコースなど、多彩なコースをご用意しています。さらに、各種の検査を1つずつ追加できるオプション検査も充実しています。

でも気軽にご利用いただけるよう、多彩なコースを設定しており、今後はライフスタイルに合わせたプランなども計画中です。現在ではコロナ禍のため受診者数を制限していますが、老若男女を問わず皆さまに定期的に受診していただきたいと思います。



救急医療センター



血液浄化センター

◆専門医療センター
近年の医療界では、疾患や療法ごとに専門の医師およびスタッフが診療科の枠組みを超えて集結し、治療に当たる「センター化」が進んでいます。
当院では、2015(平成27)年に現在の市立堺病院跡地へ移転したタイミングで診療科の充実を図るとともに各種センター

清恵会病院の専門医療センター

救急医療センター／脳卒中センター／消化器病センター
糖尿病・生活習慣病センター／フットケアセンター
手外科マイクロサージャリーセンター／脊椎脊髄センター
スポーツ関節鏡センター／人工関節リウマチセンター
骨折治療センター／リハビリテーションセンター
心臓リハビリテーションセンター／血液浄化センター
化学療法センター／内視鏡センター
堺清恵会LDセンター

を整備しました。現在、通常の診療科とは別に16の「専門医療センター」があり、それぞれの専門に特化したチーム医療を実践しています。
救急・急性期病院という性質上、脳神経外科系の「脳卒中センター」や整形外科系の「脊椎脊髄センター」「手外科マイクロサージャリーセンター」「スポーツ関節鏡センター」などは特にスタッフや設備機器が充実しており、広域から患者さまを受け入れています。

また、当院は発達障害の診療にも力を入れています。「堺清恵会LDセンター」では、小児科と連携して、子どもの学習障害に関する診察・診断・評価・指導を行っています。

◆医療連携と交流 地域の中核病院として——

ネットワークのすべてが堺市内にある地域密着型の清恵会グループは、清恵会病院の創立当初より堺市に根差し、診療以外にもさまざまな形で地域との交流を深めてきました。

一つは、開業医の先生方との連携です。患者さまにより良い医療を効率的に提供するためには、地域の中核病院と患者さまに身近な診療所が協力し合う、病診連携が重要です。そのため清恵会病院では、早い時期から「地域医療連携懇談会」を開催して協体制を構築してきました。今後さらに連携のきずなを強めていきたいと考えています。
もう一つは、地域に住まう方々

新院長として自己紹介

最後になりましたが、ここで、院長である私の略歴をご紹介します。

私は防衛医科大学校を卒業し、陸上自衛隊で約2年半勤務した後、大阪大学医学部附属病院の特殊救急部(現・大阪大学医学部附属病院 高度救命救急センター)に研修生として入局しました。その後、関連病院での勤務を経て約3年間のアメリカ留学で海外の医療を学び、帰国後は大阪府立病院の救急診療科(現・大阪急性期・総合医療センター 高度救命救急センター)に入職し、主任部長なども経験しています。

医師としての半生は救急医、外傷専門医、熱傷専門医、中毒専門医、インフエクシオンコントロールドクター(※1)として救急・急性期医療ならびに専門医療に取り組み、日本DMAT(※2)の隊員として災害現場での医療にも携わってきました。



また、防衛医科大学校の救急部教授、救命救急センター長に就任して以降は、指導者・教育者として若手医師、看護師、救急救命士の育成、学生の教育にも情熱を傾けてきました。

そして、2021(令和3)年4月に清恵会三宝病院の院長として慢性期医療に従事し、昨年10月、清恵会病院の院長に就任いたしました。

※1 インフエクシオンコントロールドクターとは、感染症の専門知識

識を有し、感染症の予防・制圧を行う医師や歯科医師のこと。

※2 DMATとは、急性期から活動できる機動性を持った災害派遣医療チームであり、専門的な訓練を受けた医療従事者で構成される。Disaster Medical Assistance Teamの頭文字を取って「DMAT(ディーマット)」と呼ばれる。

医療人としての思い

救急・急性期医療および災害医療に身を投じてきた私は、生命の危機に瀕した大勢の人を診てきました。そして、生命を危機から救うための手立てを追求してきました。また、回復期・慢性期医療を提供する清恵会三宝病院では、危機を乗り越えた人々に接してきました。

医療は万能ではありません。病気やけがの治療に最善を尽くしても、残念ながら後遺症が残ることはあります。治療は終わっても、患者さまとご家族の人生は続きます。元の生活には戻れないとしても、自分らしい、幸せな人生を送ることができるよう

うに、QOL(※3)を少しでも高めることができるように、そのお手伝いをするのもまた医療です。そして、それを実践しているのが清恵会グループです。

治療法や医療機器、医薬品などの進歩は目覚ましいものがあります。そして、医療における考え方も時代とともに変化していると感じます。すなわち、治して終わりではなく、治し支える。私たちは治療のその先を見据えて、患者さまに寄り添いながら歩んでいきたいと思えます。



日進月歩の医療界において、

私たちも日々向上しなくてはなりません。そのために私は院長として、今まで以上に教育に注力しようと考えています。それは心の教育とでもいいましょうか、患者さまを思いやる心、「コミュニケーション力、仲間を大切にする気持ち、医療人としての誇りと夢、そして責任感——そうした豊かな人間性を、この清恵会病院のスタッフには持ち続けてほしいと願うからです。

※3 QOLとは、Quality Of Life(クオリティオブライフ)の略語で、「生活の質」や「生命の質」などと訳される。

地域の健康を見守り続けるために

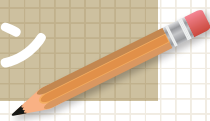
2020(令和2)年3月、WHO(世界保健機関)がパンデミック(世界的大流行)を宣言して間もなく3年。コロナ禍という言葉が示す通り、新型コロナウイルス感染症の流行はわざわざい以外の何ものでもありません。

しかし、転じて福となしたこ

ともあるようです。一つは、社会のDX化が進展したことでしょう。DXはデジタルトランスフォーメーションと呼ばれ、デジタル技術による変革といった意味です。医療の分野も例外ではなく、清恵会病院でもより満足度の高い医療サービスを提供するため、これまで以上に各種業務のDX化を推進する予定です。

そしてもう一つ、コロナ禍は私たち医療人に団結を促しました。それは、院内における協 lực体制はもちろん、地域医療連携の強化にもつながりました。清恵会病院は堺市立総合医療センターと連携を密にし、市内の病病連携および病診連携をより強固にして、地域住民の生命を支えるのだという気概を胸にコロナと闘ってきました。

ウィズコロナの社会になり、やがてアフターコロナの時代になっても、この医療ネットワークを活用し、引き続き地域の健康を見守っていききたいと、スタッフ一同、決意を新たにしています。



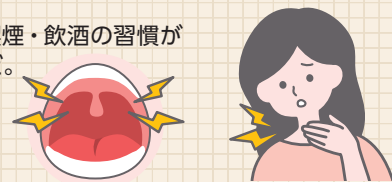
〈新しいオプション検査〉
口腔がん検査／咽頭・喉頭がん検査
 口腔は、「こうくう」または「こうこう」と読みます。簡単に言うと、口の中のことです。
 咽頭（いんとう）とは、鼻の奥から口の奥、食道に至る部分です。喉頭（こうとう）は、いわゆる「のどぼとけ」のところにある器官です。
 口腔がん検査は、口腔内に異常がないかを頭頸部がん・口腔がんの専門医が視触診（目視と触診）で確認します。

こんな症状はありませんか？

口の中 → しこりや腫れ、痛みがある。ただれ、口内炎などが治りにくい。

のど → 声のかすれ、痛みや違和感がある。日ごろから咳（せき）や痰（たん）がよく出る。痰に血が混じる。

その他、喫煙・飲酒の習慣がある方など。



※本検査は、基本コースまたは他コースを受診される場合にオプション（別途料金）として追加が可能です。オプション検査単体での受診はできません。

清恵会病院の8階にある「清恵会健診センター」に新しいオプション検査が登場しました。
 オプション検査とは、基本コースをはじめとする各コースに別途、気になるところの検査を自身で選んで追加することができる項目です。お一人おひとりに合った、より精度の高い健康診断を受けていただくことが可能です。

口の中から喉にかけての異常は多様であり、他の病状と勘違いされて発見が遅れる場合も少なくありません。従ってこれらの検査では、特に口腔・咽頭・喉頭がんの疑いがないかを専門医が検査します。また、検査後は担当医が所見の説明もしっかり行います。

咽頭・喉頭がん検査は、同じく専門医が胃カメラよりも小さい内視鏡を使って検査します。

清恵会健診センター

健康診断で、 口や喉のがんも検査できます

いのち 生命をまもる 医療をつなぐ

地域医療ネットワーク

清恵会病院と共に地域の医療を支え合う
 医院・クリニックをご紹介します。

からだところ

スマイルキッズクリニック ☎072-226-0015

堺市堺区田出井町1-1-114 ベルマージュ堺1階

- 診療科目／小児科、アレルギー科、小児心身症外来
- 診療時間／9:00～12:00、13:30～15:30、16:00～18:00
 （※時間帯により診療科が異なります。詳しくはホームページをご覧ください。）
- 休診日／日曜、祝日、火曜の午後以降、土曜の夕方
- 開院年／2022年8月
- ホームページ／<https://smile-kodomo.com>



子どもたちの笑顔のために

昨年8月、JR堺市駅前に開院した小児科クリニックです。私は院長の原田直美と申します。私は大学卒業後、大病院や市立病院などで子どもの診療を幅広く行ってきた小児科専門医であり、特にこの診療を専門分野としています。私自身、子育て中の一児の母です。どうぞよろしくお願いいたします。

からだところの 健康を支援します

子どもの成長のためには、心身の健康がとても大切です。スマイルキッズクリニックでは、大切なお子さまが笑顔で健やかに成長されるよう、さまざまな面からお手伝いをさせていただきたいと思っています。

具体的には、乳幼児から高校3年生までを対象に、乳幼児健診や予防接種、弱視などの危険因子を調べるスクリーニング検査、小児科全般をはじめ食物アレルギーやアトピー性皮膚炎などのアレルギー疾患、さまざまな症状があらわれる小児心身症などを診

療するとともに、不登校や子育てに関する悩みなどのご相談にも応じています。
 当院は地域に根差し、どなたでもお気軽にお越しいただけるクリニックです。お子さまの心身について何か気になることがあれば、ぜひ一度ご相談ください。

清恵会病院とのかかわり

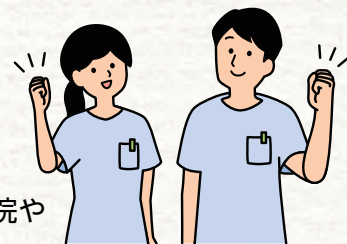
精密検査や入院が必要な場合は、清恵会病院や近隣の医療機関、大阪母子医療センター、近畿大学病院などにご紹介いたします。病診連携を密にして、地域の子どもの健康を見守っていきたく考えています。



院長の原田直美先生(右)とスタッフの皆さま

清恵会グループだからこそできる 実践的な教育

清恵会第二医療専門学院では学生たちの教育について、同グループの清恵会病院や清恵会三宝病院と密に連携を図っています。今回はその一端をご紹介します。



Point.1

理学療法士の治療手段の一つである**物理療法(水治療法：水を使用した治療法)**の様子です。例えば、関節や筋肉にこわばりがあることで関節の動きが制限されている場合、温熱(温める)を加えることで、こわばりが改善して運動しやすくなることがあります。当学院では、この演習を**清恵会病院の実際の設備機器を用いて行っています。**



Point.2

清恵会病院や清恵会三宝病院で働く**現役の理学療法士を講師として招き、授業をしている様子**です。医療界の**先輩が臨床現場で培った貴重な経験や生きた知識を学生たちに直接伝えます。**学生たちも質問したりしながら、真剣かつ楽しく有意義に学んでいます。



Point.3

臨床実習に臨むにあたって、**実践を想定した技術試験の様子**です。現場のスタッフが患者役を務め、学生が実施した技術内容について、**プロの立場からアドバイスをしてもらっています。**



清恵会第二医療専門学院には理学療法士科と放射線技師科(1部・2部)があります。

当学院の学生たちにとって療法士や技師は憧れの存在であると同時に、普段の授業で接することのできる身近な存在でもあります。実践的なスキルはもちろん、医療専門職としての心構えやプロとしての意識を彼ら彼女らは学んでいます。卒業して、本物のプロフェッショナルとなるその日まで。

三宝病院

「回復期病棟と療養病棟」についてのお話し

清恵会三宝病院の病棟は、目的に合わせて回復期と2つの療養(医療療養/透析)の、大きく3種類に分かれています。

回復期病棟とは、患者さまが自宅に戻ることを目指して、毎日訓練などを行うリハビリテーション中心の病棟です。一方、療養病棟とは、医療処置を受けつつ体と心を休めて、健康の回復または維持を目指す病棟です。

回復期病棟

365日のリハビリテーションと積極的な退院支援を行い、患者さま一人ひとりの病状や回復速度に合わせて理学療法士、作業療法士、言語聴覚士が適切なリハビリを提供しています。

療養病棟

特徴的なのは療養病棟です。三宝病院の療養病棟では、急性期の治療を終えて医療処置を受けつつ安静が必要な患者さま



三宝病院での対面リハビリ見学

◎退院後も支援

回復期病棟と療養病棟、それぞれ患者さまに合った治療・リハビリを受けながら退院を目指します。また、退院の際には、必要に応じてご自宅へ訪問し、居住環境の調整や福祉サービスのご提案といった退院後のサポートも三宝病院では万全を期しています。



はもちろん、回復期病棟で毎日リハビリテーションを行うことに体力面や病状面から不安のある患者さまが、ご自身のペースで理学療法士、作業療法士、言語聴覚士のリハビリを受けながら、ゆつくりじっくりと自宅退院を目指すことができる病棟です。

清恵会グループのご紹介

法人本部

清恵会病院

急性期機能病院

〒590-0064

堺市堺区南安井町1丁1番1号

☎ 072-223-8199(代)



清恵会訪問看護ステーション

訪問看護・
訪問リハビリテーション

〒590-0064

堺市堺区南安井町1丁1番1号

清恵会病院8階

☎ 072-232-6074

清恵会ケアプランセンター

介護相談・ケアプラン作成

〒590-0064

堺市堺区南安井町1丁1番1号

清恵会病院8階

☎ 072-238-6860

清恵会ヘルパーステーション

訪問介護・
生活支援サービス

〒590-0065

堺市堺区永代町2丁3番9号

☎ 072-320-9055

清恵会三宝病院

複合型慢性期機能病院

〒590-0903

堺市堺区松屋町1丁4番地の1

☎ 072-226-8131(代)

さんさんデイケア三宝

通所リハビリテーション

きらきら訪問リハ三宝

訪問リハビリテーション

〒590-0903

堺市堺区松屋町1丁4番地の1

清恵会三宝病院 介護事業部

☎ 072-225-0066

清恵会向陵クリニック

人工透析外来

〒590-0024

堺市堺区向陵中町6丁4番10号

☎ 072-257-3131

清恵会医療専門学院

看護師・准看護師養成校

〒591-8031

堺市北区百舌鳥梅北町2丁83番地

☎ 072-259-3901

清恵会第二医療専門学院

理学療法士・
診療放射線技師養成校

〒590-0026

堺市堺区向陵西町4丁5番9号

☎ 072-222-6226

訪問看護をご存じですか？ ご自宅や施設で看護やリハビリテーションを受けることができます。

このようなことでお悩みではありませんか？

住み慣れたご自宅で安心して過ごせるよう、看護師や療法士がサポートさせていただきます。
まずはお気軽にご相談ください。



薬が多くて
飲み忘れがち



食事をするとむせる、
うまく飲み込めない



よく転倒する



安心して
自宅での入浴したい



家族で介護できるのか、
どうすればいいのか…

お問い合わせ先

清恵会訪問看護ステーション

☎ 072-232-6074

(月曜から土曜 9:00 ~ 17:00)

または清恵会病院の
外来スタッフに
おたずねください。

